



卒業証書授与式

本日21日、令和5年度の卒業証書授与式が行われ、89人の子供たちが、帯西を旅立っていきました。式辞の中で、私は「和魂洋才」の話をしました。20世紀最大の人類学者と呼ばれるフランス人、レヴィ=ストロースは、日本人のもつ可能性を高く評価しています。レヴィ・ストロースの考え方で私たち日本人を端的に表すと、「和魂洋才」という言葉が当てはまります。レヴィ=ストロースは、日本の独自性について、世界で唯一無二である要素がいくつもあることを発見し、驚きをもって感動すらしています。それは、日本古来の精神を失わず、西洋からの優れた学問・知識・技術などを取り入れ、両者を調和・発展させているからです。例えとして、世界最古の法隆寺の建築技術や、今年の1月に月面着陸に成功した小型探査機スリムなどの話をしました。さらに、「和魂洋才」は、日本人の精神性にも特徴が見られます。日本人は、周りの状況・環境をしっかりと見ながら、他の人との違いを理解し、そこで自分が果たせる役割を担おうとします。それによって、組織が一体となり、結果として自分の存在を実感するということが、日本人の精神に根付いています。「おかげさま・お互いさま」の精神にもそれが表れています。その一例を挙げるならば、野球の日本代表で世界一になったサムライジャパンです。一人一人が、チームの中で自分の務めを果たそうとする姿からは、「和魂洋才」の精神性を感じることができます。アメリカから伝わったベースボールは、日本型野球として広がり、世界を席卷しています。



まさにこの「和魂洋才」の姿は、卒業生の皆さんからも感じる事ができました。チーム帯西の中で、自分や友達の行いを「4つの心」で価値付けたり振り返ったりしながら、自己有用感を高めてくれました。委員会活動やボランティア活動、たてわり班活動など、「4つの心」を生かした活動を、磨き上げ、充実させたのは、卒業生のリーダーシップと活躍無しには考えられません。他にも工夫を凝らした「全校かくれんぼ」や「たてわり集会」は、帯西のよりパワーアップした「わくわく」した伝統を卒業生が創り出してしてくれました。これを言い換えると、帯西は、未来で活躍できる人材を育てていく学校である、と自信をもって言うことができます。

それは、これからの日本をそして世界をリードしていくのは帯西の子供たちだと信じて止まないからです。先行きが不安で未来を見通せない暗い状況にあるからこそ、帯西レンジャーの様にカラフルで前向きな「心と行動のエネルギー」を発揮することが尊いのです。

卒業生が歌った「地球星歌」には地球上のどんな遠い場所同士、人同士でも繋がっていて、平和な世界やみんなが幸せになれる未来はどこかの誰かが創ってくれているのではなく、自分自身で創らなければならないという意味が込められています。卒業生は、この意味を噛み締めながら、「帯西ブルー」の心で会場を一杯にし、立派に旅立っていきました。

卒業生の限りない可能性に幸多かれと心より祈っています。